

えほんのおへや通信



2014年8月1日(金)発行 サンガこども園

猛暑、夕立、セミの鳴き声、それぞれ夏の風物詩です。公園ではセミのヌケガラと地面の小さな穴がいたるところにみられるようになります。これから本格的な夏の到来です。

サンガこども園で定期購読しています福音館書店の月刊幼児絵本「こどものとも」8月号の紹介。

<p>こどものとも 0.1.2 10ヶ月～2歳向き</p> <p>「ほおずき ほおずき」 降矢洋子作</p> <p>ほおずきが3つ。顔を出して、こんにちは。とっこ、おさんぽです。</p> 	<p>こどものとも 年少版 2～4歳向き</p> <p>「はなびがあがりますよ」 のむらさやか文 / 織茂燕子絵</p> <p>花火が上がりますよ。「ひゅーーー どん どん どん」「ぱぱぱーん くるまになりました」。さあ、つぎは何かな？</p> 
<p>こどものとも 年中向き 4～5歳向き</p> <p>「おにいちゃんのサメ」 いしだえつ子文 / 吉岡さやか絵</p> <p>「うちにサメがいるの。おにいちゃんのサメ」。サメはお兄ちゃんの分身のように暴れ回ったり、優しくなったり、家じゅうを自由に泳いでいます。</p> 	<p>こどものとも 5～6歳向き</p> <p>「あむと あおいリード」 小風さち作 / 山ロマオ絵</p> <p>黒い犬あむは、使われていない青いリードが誰のものなのか、気になっていました。ねこのチャイの話から、それが飼い主のかっちゃんが以前可愛がっていたムンクのものだとわかります。</p> 
<p>ちいさなかがくのとも 3～4～5歳向き</p> <p>「なつのはやしのいいにおい」 館野鴻作</p> <p>夏の雑木林。どこからか甘酸っぱいにおいがしてきます。チョウがにおいに誘われて飛んでいくと、ごつごつした木のくぼみにいろんな虫たちが集まっていました。チョウも仲間に入れてもらおうと近寄りますが、……。</p> 	<p>他にこんな絵本も購入しました。</p> <p>「新幹線のたび」 ～はやぶさ・のぞみ・さくらで日本縦断～ 作：コマヤスカン 3歳から</p>  <p>講談社</p> <p>新青森発ー鹿児島中央行き日本を見わたす大パノラマ絵本です。この本にも描かれた美しく、喜びにあふれていた多くの街が、東日本大震災で起こった大津波によって、壊滅的な打撃を受けました。作者のコマヤスカンさんの印税と講談社の売上収益の一部（売り上げの5%）は日本赤十字社を通じて東日本大震災の義援金に寄付されています。</p> <p>※年齢は目安です。</p>
<p>【雑感】</p> <p>いつ頃からか、猛暑、熱帯夜などという大げさな名前がつかれました。そして大雨がいつの間にかゲリラ豪雨とかいう味もそっけもない言葉になり、締め切ったエアコンの部屋の中ですごすことが多くなりました。</p> <p>異常気象と言い、地球温暖化と言い、私たちは何かを恐れているようです。もしかすると、治水政策の遅れを隠すため役人とマスコミが共同で私たちをだまそうしているのではないかと勘ぐりたくなります。</p>  <p>【添付文書】</p>	